

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第10巻第10号 1966年10月1日発行

聖徒の道

10

VOL. 10 No. 10





聖徒の道		10月号	もくじ	
予言者のことば			夏に思う	2
デビッド・O・マッケイ				
伝道部長メッセージ				5
アドニー・Y・小松				
質疑応答				17
ジョセフ・フィルディング・スミス				
系図のページ				6
おおわが献堂式				8
—— 群馬支部 ——				
人格の奇蹟				12
証				10
悔い改め進歩の法則				16
図書案内				



雨に濡れた歩道に

落葉が舞い

ひびく靴音に

秋の声がある

野山も錦をつけ

野分に破れた芭蕉の葉に

打つ秋雨もそぞろ佗びしい。

書は心の糧

胸うつひびきは

証となる

夜空に響く雁声に

秋の心を樂しみ

長夜に心ゆくまで

書を楽しもう

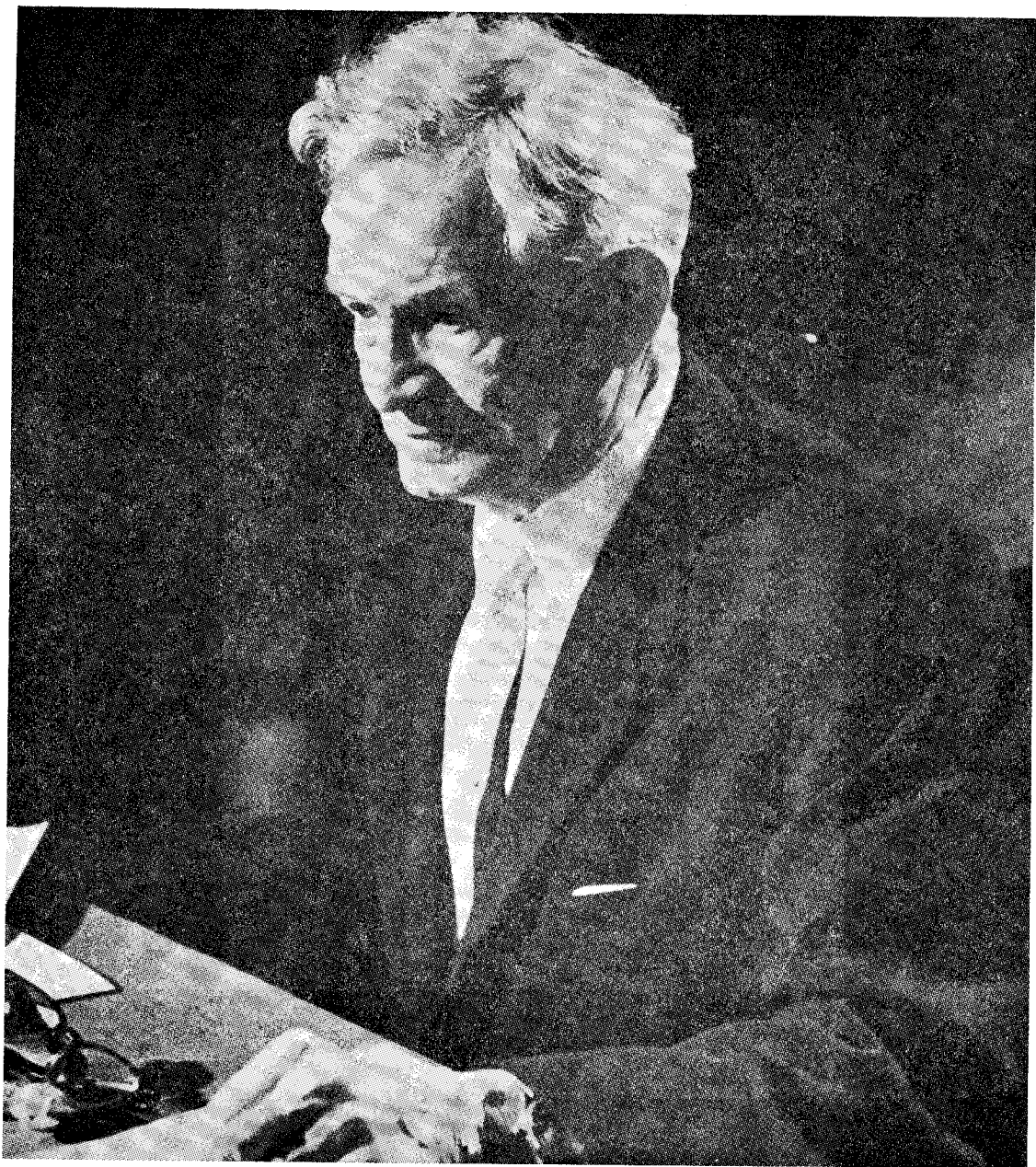
聖徒の道 10巻10号

1966年 10月1日

予言者のことば

夏に思う

デビッド・O・マッケイ



敬 虔

正しい宗教的態度に貢献する強大な原則は敬虔であります。即ち安息日その他のすべての聖なるものに対する敬虔な会があります。敬虔は直接神に向う思いであります。これなくしては宗教はあり得ません。日曜日を遊休としないようにしましょう。それは聖日であります。そしてこの日に私たちは礼拝堂へ行って私たちの神を求めるべきであります。若しも私たちが安息日に神を求め神前にはべることができたなら、その一週間神と共に在ることが、あまりむずかしくなくなるのであります。

私たちの聖餐式に於てすべての人が、神に逢い神を礼拝しようとして参ります。そしてそこには礼拝者の気持を正しく導く秩序の精神、敬虔の会があるはずであります。

神は私たちが心と思いと力を尽くし神に仕えるように助けます。

全人類に対するやさしい思いやりと特に私たちに著れる氏名と清浄な生命を与えて下さった者に対する愛を以て、敬虔の念と祈りを以て、まず神の国と神の義とを求めましょう。そうすればすべての他のものは私たちに与えられるであります。

両親、教師の義務

この教会内ですべての親、すべての教師に負わされている義務は、一人一人の子供の心に他人に対する、また社会に対する、責任感を持たせることであります。人格の神聖さはイエス・キリストの根本的な教えであります。

啓示によって予言者ジョセフ・スミスはこの崇高な教えをモーセの著の中に記しております。

「これが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセの著一・三九)

この真理の中に真の宗教の根本原則が見出されます。そしてそれは社会を治める人々の心にふれ、家庭の平和に響くのであります。家庭内の子供たち一人一人が若し自分の欲求を満足させたら他人に悲しみと不便を及ぼすなら、そうすべきでないことを自覚するようにさせましょう。他人に対する務めの意識が彼の行為を律するものでなければなりません。

家庭の価値

私は心から両親たちに家族を集めて、真理と正義をまた家族的な愛と忠誠さを教えるようにすすめます。家庭は正しい生活の基礎であり、その他の如何なる機関を以ってこれに代えることができません。

またその本質的な機能を成就することはできません。この困難な時代に於けるいろいろな問題は、他の如何なる場所、機関または手段によるよりも家庭内に於ける愛と正義と教訓と模範と、その務めに対する献身による方がよく解決するのであります。

神があなたたち自らのものとして見守るように任せられた者を、よく身近かに世話し、教えられるように、あなたたちの上に祝福がありますように、あなたたちがそうするとき、家庭内に愛が充ち、両親に対する従順さは増し、イスラエル人の若者たちの信仰は発展し、彼らは悪い影響や誘惑に勝ち正義と平和を運ぶ力を得、そうして私たちの天父の家族圏の中に永遠の場所を被保するのであります。

MIAの目的

相互発達活動の最終目的は、主の靈感と導きの下に人に不死不滅と永遠の生命をもたらすように助けることがあります。

私たちは男女の心に神の御業の神性に就ての証をうえつける直接当面の目的を持っております。この証なくしては永遠の生命は得られません。

MIAは行動する組織であります。そしてその音楽、演説、演劇及びダンスのプログラムの内に、それはこれらの芸術

を単に娯楽としてだけでなく高揚させるものとして提供する義務を持っているのであります。これらの活動は常に人間関係に於て低級なものでなく最上の光景でなければなりません。MIAのプログラムへの参加は趣味を養い文化及び人生そのものに於ける最上のものを獲得するであります。あなた方御両親たちが御子さんたちと共に最近MIAに御出席されたのは何時ですか？彼らはそこで、如何に進歩しているでしょうか？次のMIA集会へのあなたへの御招待がなされているでしょうか？

教会の福祉プログラム

教会が個人の救いのために設けられたように教会の福祉計画は個人の便益のために設けられました。この活動の機能は

- 一、必要な人に物質的援助をする
- 二、生活の手段としてではなく一時的に会員を復職させる
- 三、彼らに自信を強める
- 四、貢献者及び受取る人、すべてに私たちは皆神の僕であるという霊的なものをつけ加える

教会の会員たちがその全生涯を通じてこの福祉計画に参加し兄弟愛を以て共に働くために朝の未明から数時間また夜分遅く及び土曜日に福祉活動をなすことに何の不思議があるでしょうか？

若人への注意

今日あなたたち若人に就ていろいろ言われていることを耳にします。或人たちは彼らは無関心であると言ひ、また彼らは教会に対する関心を失ったと申しします。私はこの非難に同意しません。私は今日程誘惑の多い時代はないことはわかりますが、これらの誘惑に打克っている若人たちは誠に信頼されるに足る人たちであります。

教会の若人の皆さん。あなた方の名を汚れないように保つ責任を考えて下さい。あなたにこの生涯をもたらしてくれた御両親を慰め幸福にしてあげることを考えて下さい。そこにあなたを神に向わせ真の宗教を礼拝させる基本的な觀念があるのです。自己の欲望または感情を満足させて、そのおびている著ある名を汚し或は両親に悲しみをもたらす者は、ひきよう者であります。若しも若い人たちが他人及び社会の権利を尊重するような正しい考えを持った家庭に育ったなら、彼の友人に対する行為は悪くなる筈はありません。

アドニー・Y・小松



愛する兄弟姉妹のみなさん

本月私たちは教会幹部によって三つの教会堂を献堂する機会に恵まれました。それは阿部野支部、群馬支部及び那覇支部であります。このことは、これらの教会堂の建築に参加した人たちの大きな犠牲と非常な働らきによって、すべての債務が支払われて、これらの教会堂が負債から完全に解放されたことを意味します。

これらの美しい教会堂は、これに含まれるすべての人々が、このような大きな計画を始める時に普通にあるいろいろの障害を克服した信仰の偉大な証拠であります。私は主がこの完成された事を喜んでおられることを確信します。

これらの教会堂の完成に時間と努力を捧げ、忠実に勤勉な働らきを以て進んでこの奉仕の召しに応えた人々は、正にすべての彼らの仲間から称讃されるに値します。あなたは、向上しようとして心から福音の光を求めている幾千、万の人々のために主の家を備えたのであります。

教会堂は、今後多くの暦月にわたって

その心を清め、悔改め、生れ変わり、主にその生涯を献納しようとして来るであろう多くの人々のための、よい記念碑となるであります。

近い将来に私たちは札幌支部、東京南支部及び横浜支部の献堂式をも迎えるであります。

まだ古い建物を使用している各支部に対しては、新しい教会堂を完成した聖徒たちに見なると、あなたの新しい教会堂を計画するように、共に働こうではありませんか。

教義と聖約第八十八章一一九節に次のように告げられております。

汝ら組織して必要な物をことごとく調べよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし。教会の会員として私たちはこの勧告に従い、神の家を設けるために、真に組織しようではありませんか。

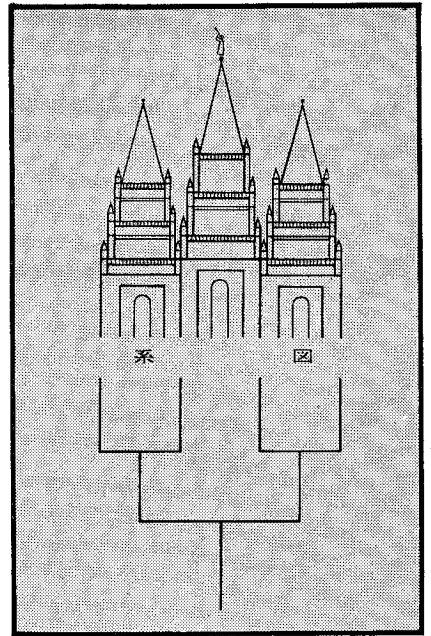
主の家は常に敬虔の念に充たされてお

るべきで子供も大人も同様に大声でしゃべったり、笑ったりまた騒々しい行いをすべきではありません。幼児たちは主の家をうやまうて静かに両親の傍に坐っておるように教えられるべきであります。

私たちは清潔さは神聖さの次に位すると告げられております。私たちは私たちの集いに常に主のみたまが宿るように、常に教会堂を清浄潔白に保つべきであります。

支部の会員たちが愛と信仰を以て教会堂建設に一致団結して働らき、完成後も同じ精神を以て続けている姿を見ることはほんとに、喜ばしい限りであります。またこれらの会員たちが新しい教会堂を持つことに心から感謝し一致協力して教会堂を清潔にするために働いておられる様子を見ることも何と素晴らしいことではありませんか。各人が清潔にすることを自覚して紙屑が床に落ちていたら拾って協力し、常に壁や床を損じないように気を配っております。

この日本に於ける主の御業への皆さんの信仰と献身を称讃しお祝い申し上げます。



末日聖徒イエス・

キリスト教会系図

協会の紹介

目下系図協会で働らいている関係姉妹から次の通り資料を送って来ましたのでその儘掲載します。

系図協会はアメリカ合衆国ユタ州ソルト・レーク市に於て一八九四年に創立されました。

その主な目的と目標は

一、系図図書館を作り系図に関するあらゆるデータ、記録書籍等を集め一般

の人々への利益をはかる。また、この図書館が系図に関するいろいろな資料教材を集め、準備し、普及して人々の系図探究を助ける。

二、死者達の記録を集め、聖なる神殿の儀式を受けさせるように準備する。

系図協会は神殿の中で行われる死者のための代理の儀式に対する公式な事務上の手続き、記録、調整、保管、等に関するすべての責任を持っている。また系図協会は神殿の儀式を行うために現在生きている人々のためにも記録を保管保存する。

三、系図協会が正確な登録と記録の照合の製度を作り神殿の儀式の執行が混乱や重復のない様にする。

系図協会の組織は最近再編成されました。その主な区分と簡単なそれ等の機能の説明は次の通りであります。

一、管理部

この部は系図協会のすべての活動を管理します。会長、副会長、理事、書記会計が協会の主な幹部であり世界中のステークホルダーや伝道部に系図の資料を発表し、普及する様に指示します。また神権会系図委員会と教会大会プログラムを管理します。

二、企画開発部

この部は将来の成長と発展のために企画し、改正の必要な計画に改正の承認を与える権限を持ち、世界中の国々に

かくれている資料を見つけ出し、使用価値のある最新制度例えば、コンピュータスキャン・ライターとか各種電気装置等を取り入れるようにする等、すべて新しい企画はこの部によって承認されなければいけないことになっています。

例えば、新しい機械によって行われているレコード・タビュレーション・セクションはこの部の管轄になっています。

三、マイクロフィルム部

この部は実際にマイクロフィルムの資料を集め、撮影し、表にし、整理して保存します。ソルト・レーク市の中心から約二十四キロ南東にグラニット山という大きな岩山があり、そこに「グラニット・マウンテン・マイクロフィルム地下貯蔵所」があります。

(インプループメント・エラの一九六六年八月号参照) そこには、フィルム製作研究所、マイクロフィルム・カメラ技術者達、その外すべてマイクロフィルムに関係のあるセクションがおかれています。マイクロフィルム計画が企てられてからこの方ずっとこの部がこれらの実務を取り扱って来ました。

四、図書館部

この部は家族の記録を編集し、写し、マイクロフィルムに撮り、系図を調べている人々に資料を提供し、記録の目録を示しています。

一九六六年現在、系図協会図書館は約七万六千冊の本と四十四万本以上のマイクロフィルム（一本約三十三メートルの長さで約千六百ページが撮影できます）。が各国より集っています。これらの本とマイクロフィルムは非常にわかりよく分類されており、分類法はUS標準「デューウィー・デシモル」制度を使用しています。この図書館は日曜日を除き、毎日一般に公開されています。特別なインフォメーション・サービス・セクションがあり、系図探究者達の問題に直接答え、相談のつています。また郵便によっても質問をうけつけています。常時図書館員達は遠く離れている所にも系図図書館を作るよう力づけ助言しています。この系図協会図書館は現在あるアメリカ合衆国内の系図図書館中最も大きく優れたものになっています。

五、記録部

この部は世界中より受取った系図を登録し、処理し「プロセス」に廻し、保管し神殿の儀式を授けられるように用意する責任があります。

系図提出者より送られて来た系図を見て間違いを訂正し、より完全にして受け入れられる家族の記録は「プロセス」に廻します。神殿で使用される公式な記録はすべてここで用意されます。また、今まで神殿で儀式を執行了人々の記録もここで保管されます。

主なセクションは送られて来た家族の記録を調査、照合、分析、調整、訂正等に別れています。（この中の一部にパシフィック・アイランド・プロセスングがあり、すべて太平洋の島々・東洋（日本）も含まれます。一から来る系図がここで取扱れます）その外、タイプだけをタイピング・セクションがあり、校正だけをする、ブルーフレッド・セクションがあり神殿に送る書類の用意が行われています。これらの書類を神殿に送り儀式が終ると返送されて来るので、この部に於て保存するわけです。その時神殿には、それ等の記録のマイクロフィルムが保管されます。

この部の中にある神殿さく引局（テンブル・インデックス・ビューロー）は記録の保管をする一部局であります。現在までにすべての神殿に於て儀式の執行された人々と、系図協会に送られて来たすべての家族の記録の中の人々が、氏名、生年月日、生地、両親名、結婚年月日、配偶者名、家族代表者名バプテスマ、エンダウメント、シーリング年月日が記入されたカードに分類されて保存しています。

またアーカイブ（記録保管所）と呼ばれているセクションには系図提出者より出された家族の記録が公式な事務上の手続きを全部終って保管あれていきます。このセクションは一九四二年まで

作られてありませんでしたので一九四二年より以前に提出された家族の記録はアーカイブにはありません。

これらすべての活動と、現在使用されている十三の神殿の儀式のために世界中のステーク部と伝道部より送られて来る家族の記録の続きを行っていくには非常に多くの人々が必要になって来ます。

現在四百人以上の人々が系図協会に常勤に働いており、百人以上のパートタイム「宣教師」（私たちはこのように呼びます。伝道するかわり系図のために働いています）がある一定の時間毎週奉仕で働いて、これらの偉大な仕事を助けています。

次に現在の系図協会役員名をお知らせします。

系図協会々長 ハワード・W・ハンター（十二使徒）

副会長（総理事）セオドル・M・バートン（十二使徒会補助）

書記 ポール・ロイヤル

企画開発部理事 ジョージ・ファツシ

マイクロフィルム部理事 ヴァン・ニースウェンダー

図書館部理事 デルバート・ローチ

記録部理事 デール・グッドウィン

お々わが献堂式

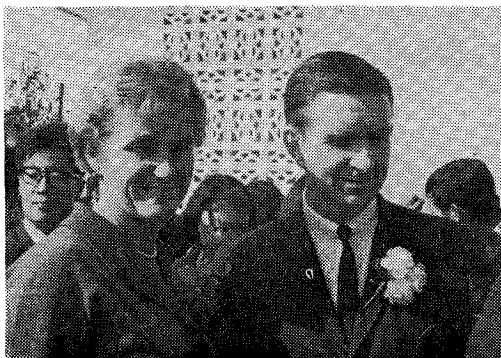
群馬支部



一九六六年十月十六日絶好の秋晴れ!!
前日から宿泊した宣教師、車でくる人、
電車でくる人、貸切バスでくる人……
皆この白い調和のとれた建物をめざして
集ってくる。一瞬イスラエルの集会の真
実性の端にふれた感があつた。教会堂に
集った人の顔は喜びと感謝と確心に満ち
あふれている。一人一人がかわす握手は
かたい。昨夜の雨は今日の秋晴れを一層
さわやかなものにした。この良き日にふ
さわしい「み空にうるわし……」を元氣
に歌い群馬支部の献堂式は始まった。

この日を迎え沢山のことが思い出され
る。十年以上も前に会員になった人たちは
全く夢のような教会堂建設のために野菜
を作って売ったり、ピアノリサイクル
をしたり、ダンスパーティー、親睦会そ
の他種々の活動を行って来た。教会堂の
建築が始まってからは毎週の仕事を中
心と実際に穴をほったり、ブロックを積
んだり、壁を塗ったり、天井をはったり……
姉妹たちは特に建築宣教師の食事とつく
ろいものを受けもった。朝の食事は五時
起きが常だった。屋根のつかないホール
で新潟との証会も開いた。建築を通して
の証詞はこの上もなく尊い、高崎の夜景
を見ながら屋根のトラスづくりをしたの
は二月の雪のちらつくときだった。アメ
リカに住む未知らぬモルモンからの金銭
的援助があった。

初期の苦勞を知らない人は教会堂が完
成するのを初期の人とは異なった気持ち



右 山田兄弟の通訳で話をされる
ハンクス長老

上 ハンクス長老夫妻



迎えたかもしれない。何の経験もない全くの素人が六・七人でこつこつとつくり上げていくのを思えば、この支部の建築にたずさわった建築宣教師の方々の努力に感謝せずにはいられない。石川、室川、大橋、工藤、林、古波、高山、高良、吉田、村上、樋口、石川、比賀、西銘、下地、石坂、赤木……長老ありがとう！これらの兄弟たちは群馬支部のブロックを積んだばかりでなく支部の会員たちの心の中に沢山の種をまいた。それは系図委員を通して、M・I・Aの活動、日曜学校の教師として芽を出し始めた。きつとこの芽はすくすく伸びて大きな実をつけるだろう。彼らは主の御業に奉仕する素晴らしさを行いをもって証詞してくれた。

ことが良くわかったような気がする。献堂式の祝福は二ヶ月前から目につきはじめた。家庭訪問をするとき教会堂を掃除するとき、求道者と話すとき……教会のあらゆる活動を通して現われている。兄弟愛を増すことが出来、末日に生きるものとしての責任を感じた。また私たちのほとんどは家族そろってモルモンではない場合が多い、教会で働いている我が子の姿をどのように感じて見ていただろうか？モルモンでないだけに苦労したのではないかと思う。家族の愛に心から感謝したい。

数々の思い出を胸に、ハンクス長老の献堂の祈を聞いた。感激は筆紙につくしがたい。前列で涙を流している人がいた。その人の気持がよくわかった。わざわざ京浜地区から来ていただいた方に感謝の意を表わすとともに天の父に「ありがとう」と呼びたい気持がいっぱいである。群馬支部も新たなスタートラインに立ち誰よりも早くできるだけ沢山の人々と共にゴールへ進まなければならないと感じた。

証

林 圭子



私がこの世で生を受けたこと
また、沢山の方々から暖かい助けがありましたこと、今このように健康に恵まれ、数々の祝福あるなかで東京南支部で働らくことが出来ていますこと等……
神様に心より感謝しております。

私がバプテスマを受けましたのは五年前でした。はじめてこの教会の宣教師よりコンタクトされたとき、何の躊躇も湧かせぬ程にも、そのとき胸に強く響くものがあつたこと、今尚よく覚えています。集会においては決して熱心な求道者ではありません。

せんでしたが、集会の約束だけは一度も破つたことはありませんでした。その話の中で私は疑うということは毛頭考え及びませんでした。後でそれがつまり原因になった訳ですが、姉妹宣教師が話される事柄は真実であり、今、聞くことは遅いことで、もっと早く知るべきことであり、私の生活にとって当然であり、また自然であると思っていました。

でも異常なまでの田舎の頑固な父母から漸く、六ヶ月かかってサインをもらい、最後のレッスンを聞くその日に、私の就職が決まりましたことを姉妹に話をしたところ「林姉妹、日曜日に人が働らいているような会社には入ってはいけません!!」と、とてもきつい調子で激しく話されました。(というのは、その会社では日曜日でも、日直のようなかたちで出勤しなければならなかった。)

私はその姉妹のあまりにもの変貌振りに驚き、またとても強制的な言い方をされたような気がしたので、私はどんなにその会社を希望していたか、また日曜日には労働してはいけな

かもしれないが、安息日に仕事に従事している人たちが沢山いるのに、宣教師たちはその人たちに對して黙認しているのですか? と高まる反撥の気持で立続けに詰問しました。

今、考えれば、恥かしい限りですが、姉妹の論すような優しくまた、奥に秘める厳しい口調で話される。話を聞いているうち、私は今まで心に高ぶっていた頑くかな気持とは反對に宣教師姉妹の二人の顔が曇りガラスから見ているようにボーッとすすみ、声をふるわせ泣いている自分に気がつきました。

翌日、取敢ず複雑な気持で会社に行ってみましたところ、私の場合に限り、勤務時間の変更となり、日曜日は休みにするという通告を受けました。

でも私が本当の意味で改宗したのは、その後、約一年半先のことでした。私は生来、暗い性格で、人づき合いが悪く、父母ともまた、兄妹とも物心ついてから改宗するまでの間親しく話し合うという経験は一度もありませんでした。そして私は家族が一緒にいる夕飯のときなどは、一種の苦痛と退屈のひとつ

きと思ったほどでした。ですから改宗後もそのまま、努力もせず、勉強しない自分にとって、友人は自分から去らせ、ときの流れのままの生活に浸っているとき、自然に誘惑を、また、不義を義とみなすものを自分から寄せつけ、また私が前々、為したいという欲求、願望等の一つ一つを私のものにした、それを学びたいという気持を押えつけることが出来ませんでした。

今、考えれば、それらのことは、教会と充分面立出来ずしとても良いことだと思っておりますが、そのときに於いては、私はそのことだけで、その時点に於いて満足出来得るものと確信していたのです。

でも、その後、私はその学ぼうと努力し、本当に心を傾けて勉強し、少しずつ他から認められていくにつれて、私の心はいつも満ち足りぬ空虚な索漠とした気持でした。

そんな筈はない。そんなわけはない。と自分に言いかけやってみても結果は無駄でした。

私は焦り、何か焦慮というのかそのような漠然とした不安の

氣持が広がっていくのに、気がつかずにはいられませんでした。

そんなときに何となく棚に飾ってあった聖書を気紛れ気分で見開き、しばらく読んでいたうち私はハッと自分が今まで見失っていたものが、満足し得なかったものが何であるかわかりました。

私はその直後、久し振りに火曜日の夜、扶助協力に出席しました。ちょうど神学のレッスンをしている、私にとっては、とても難解なものでしたが、その狭くて暗い教師だけの声が響く部屋のなかで、かっけない、胸が熱くなるような興奮に心がやすぶられました。

時間がくると、何のためらいもなく一人づつ静かにそして強く証詞する姿をみて、電気であつたような衝撃を感じました。というのは、すべての人の証詞は終り、しないのは私だけであつて、あたかもそれを強調するかのようなときの空白を、沈黙を、破るのに、私は立ち上つて証詞することが出来ませんでした。たった一言でさえも、その後より、私の心に邪心も

不安もまよいもありませんでした。そして、教会の集会に出席することを生活の第一目標とし、以来、一度も自分から欠席したことはありません。

そんな氣持のとき、MIAのMも知らぬ私がYWPIA会長として召されたとき、とてもそのような責任とは思ひもかけずそのときの喜びと驚きと感謝の念は、口では表わせぬ程の感激でした。私はそれまで教義と聖約四章三節の「されば汝らもし神に仕えんと望むならば、汝ら神の業に召さるるなり」聖句を心から信じて希望していたのです。

今私を、伝道にかり立たせた氣持にさせたのは、この召しからによるものです。そしてそれを助けてくれたのは、扶助協会、日曜学校のレッスンであり、またある兄弟と、姉妹の励ましによるものでした。

その後、一年にして非専任宣教師として、素晴らしい二人の同僚と一緒に働かさせていただきましたこと、感謝せずにはいられません。その期間に於いて、一番大切な誠命は何であるか、善とは何であるか、また愛する

ということは何であるか神の御旨とは何であるか、少しでも理解できたような気がいたします。

その間に私の妹も含め、七人の人が改宗され、また、私の父母も、この召しについて、心から信頼の氣持をもつてくれ、理解してくれ、私の伝道が立派になし遂げられるよう励ましの手紙をもらうとき、私は何といつたらいいのか感謝の氣持で一杯です。また、今はそれに報いたという氣持で一杯です。

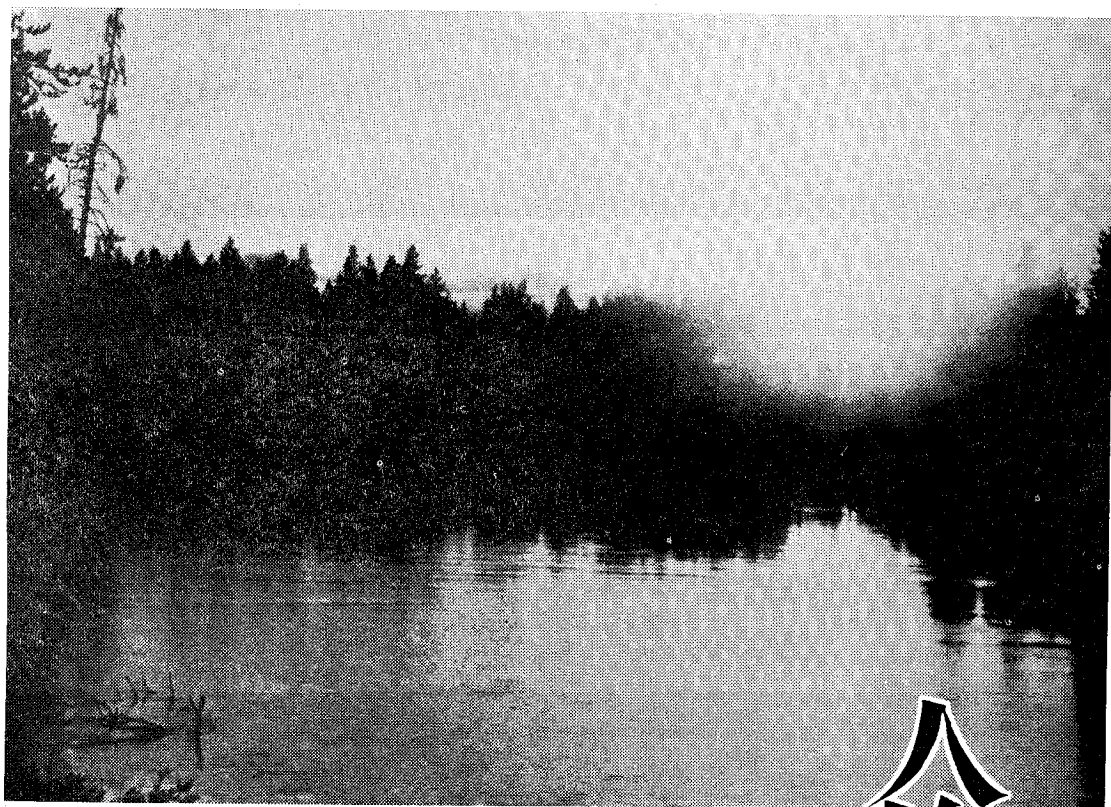
どんなに堅い心をもつて福音に対する人、両親、兄弟がいても、私たちの行為と愛と忍耐とにより、それらは、真理の道に導びかされるものと心から信じまた、証詞いたします。

ある札幌の姉妹が私におくつて下さった「私は福音を恥としない」(ローマ書一章十六節)という聖句の如く、私もそのように、愛をもち進みゆくとき、光明があるものと信じております。

私は確かにこの教会が神権を土台とした唯一のキリストの教会であること、ジョセフ・スミスが神様と御子イエス・キリス

トとお会いできましたこと、聖書とモルモン経がイエス・キリストを証詞する書物の証人であることを証詞いたします。

今、恵まれてこの価値ある召しにあずかり、そして私のこれからの伝道に先立ち最後にコリント前書九章十六節「わたくしが福音を宣べ伝えても、それは誇りにはならない。なぜなら、わたくしは、そうせずにはおられないからである。もし福音を宣べ伝えないなら、わたくしはわざわいである。」を読み、これらすべて申し上げましたことイエス様の御名を通して証詞いたします。アーメン。



人格の足跡

スターリング・W・シル長老

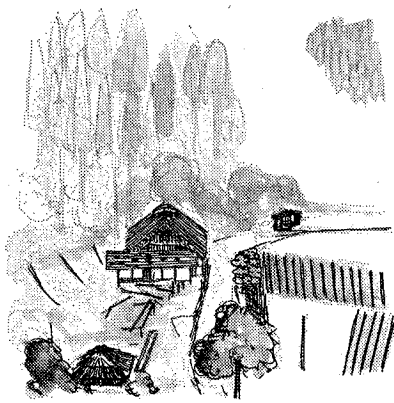
近頃、私は「モハンダス・K・ガンジーの生涯」というルイス・フィッツシャーの書いた本を読んでとても益になった。これは生涯の五分の四をはだかで過し、電話もなければ、電気も水道もない土作りの小屋に住んでいた百二ポンドの有色人種の男の話である。彼は自動車を持たず、財産も、外交官も、また軍隊も持たなかった。更に、公共上の職務を求めなかったし、また持ちもしなかった。人々は、ガンジーが極めて正直で、信用ある且つ正しい人間であると知っていた故、彼が何事かを言うと、すべての人はそれが本当に確実であることを認めるのが常だった。彼によって、何と個人の廉直さという美德が作り出されていることであろうか。

自分の欠点を認めているガンジーは、自分自身の人格を自分で築きあげるに努力し、後になって、彼は自分自身を「自己再製の人間」と呼んでいる。このことについて一つの例を知りたいとするなら私は次の場合をあげようと思う。

ガンジーは自己育成のために長い間断食をした。彼は「自分自身を統一出来ずして、如何に他の人を統一することが出来るだろうか」と言い、また、根本的な一つの概念を受け入れ、それを実行しなかったら、正直とは言えないとも言っている。ガンジーの偉大さは、すべての人が出来て、殆んどの人が行わないことを実行することにあった。

かつて、ガンジーは、自分は菜食主義者になると母親に誓言した。後、彼がひどい病気になる、もう生きる望みもなくなったとき、医者には彼の生命を救うために少しの肉のスープをのむようにすすめた。しかし、ガンジーは「私は生命にかけても、そのようなことはしない。私に開かれていた道は唯一つ——死であるが私は決して自分の誓言を破らない」と断言した……。何と感動を覚えさせる宣言では無いだろうか。

フィッツシャー氏は、この自己再製による力によって、ガンジーは自らを五億の指導者たらしめ、インドに於ける、また



世界に於ける最も力ある存在となったと言った彼は、人並以下の人間であっても大いなる力を持ち、且つ成功を得る人間になれるという、その過程を自ら示したのである。この大いなる力を活用するときに、我々の生活の中にどんなことが起るかを考えてみよう。諸君に与える私のメッセージは、人生の最大の成功は神が人間の中に植えたもうた大いなる潜在性というものを発達せしめるということである。

私は実業家である。故に実業家としての立場から諸君にお話したい。私は成功と幸福をひきつける人間の特性ということに大きな関心をいだいている。ひきつけるという言葉を使ったのは、すべての人間が本当の意味で磁器のようなものであるからである。諸君の人格は諸君の生活の中にある他のすべての事柄——地

位、収入、考え方、及び諸君に与えられるすべての満足を決定せしめるのである。

私はかつて古代中国の人たちの間で極めて興味ある習慣について聞いたことがある。もし諸君が中国人のある家庭を訪れ、そこで何かを見て、ほめてごらんない。彼らはほめられたそのものを包んで諸君にプレゼントとして下さるのである。これが彼らの習慣である。諸君がほめたものを、彼らは何でも下さるのである。

しかし、人生にもちょうど同じような習慣があると考えるのも良いであろう。愛は諸君に何事をも所有する権利を与えるのであり、諸君は愛し、賞讃するものを何でも得ることが出来る……。正直という美德を愛するならば、正直を受け、友情を愛するならば、友情を受け、能力を愛するならば、能力を受け、廉直と勤勉と勇氣を愛するならば、それらを受ける。従って良かれ、悪しかれ、愛するものを、人生は包み、諸君に与えてくれる。諸君が大きな才能を愛せれば、これらのものは、やがて諸君の中に現われるようになり、如何なるものといえども、諸君のもとより遠ざけられるものは何一つ無い。

人間の意志——見えざる力

靈魂の生みだすもの——

こは、花崗岩の如き壁ありて、道塞ぐとも

目的地に向いて道を切り開く。

運るに忍耐あれ——

しかして、理解ある者の如く待て、

靈超ちて命ずるときに、

神に従うの備えあり、

これこそ「人格の奇蹟」である。勿論我々は人生に於て何が一番必要であるかを考えなければならぬ。ある人たちは何か誤った事柄を得ようと思えるかも知れない。多くの人が真実の目的、必要な事柄、愛すべき対称物、仕えるべきもの行いを推し量るころの標準、目的——こうしたものを有さないのは、極めて奇妙なことである。またある人は「何にも期待しなければ、決して失望することはないよ」「目的にねらいをつけていなくとも、必ずどこかにあるものだよ」と言う。これは、何と無駄な、愚かな考えではないだろうか。我はみな富める者となるように創造されており、実にイエスは「地に満つるすべてのものは汝らに与えらるべし」と言われている。

私はここで自分の必要物によって生ぜしめらる力について説明してみようと思う。

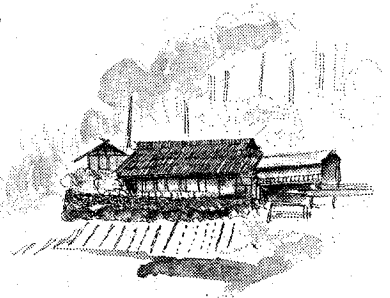
一九二六年、一つのアメリカ自動車会社（たまた幌付）自動車——ビュイックと二千五百ドルを英国海峡を泳いだ最初の女性に与えると発表した。ガートルード・エダールという名前の十九才にな

るアメリカの少女は、この自動車を欲しいと思った。私は、だれでもこの自動車を欲しい、必要だと思うようになるまで欲しい、必要ということがどうゆうことであるかわからないと思う。ガートルード・エダールは英国海峡の名で知られる冷い二十一マイルの海を泳ぐ決心をしたのであるが、しかし半ば泳いで完全に疲労を感じ、最早一かきも出来なくなつた。彼女は、海の上に横わりながら、だれかに水面から助け出されることを望んでいたが、そのときに赤色のビュイックが思い出され、またどうしてもそれを欲しいという気持になった。そして、役女はまた泳ぐ元気が出て、勝利の岸にたどりつくまで止めることなく、泳ぎ続けたのであった。

ガートルード・エダールが疲れ切ったときに泳ぐのを止め、何にも欲せず、期待しないようになったら、彼女は何物も得なかつたであろう。心の中にきき込まれ、且つ諸君が心から愛する大いなる目的を持つなら、何事も諸君の前よりしり込みをするものはないであろう。人間の根元は靈であり、勝利は靈魂の中に常に生み出されるのである。

並みの走者は息が切れるまで走って止める。

けれども、徒競争の選手には、常に走り続けさせる鉄の如き意志がある。筋肉共に完全に疲れはてると前者は休



息を求めるが、
けれども選手は、重い足をひきずりながらも走り続ける。

心の中の元氣と活力がそうさせているのだ。

並みの走者は優秀な点が備わると、それで満足するが、

選手は最善を尽し、更にもっと努力しようとする。

多くの人々にとっての問題は、彼らが成功を得るための準備が出来ていないということである。

数年前、フランクリン・D・ルーズヴェルト大統領は、「四つの自由」を発表した。一つは「必要からの自由」であった。しかし、これよりもっと重要な自由があり、それは「必要に対する自由」である。アメリカでは「必要」ということは極めて大切であって、我々は必要な

け何でも得ることが出来、そして、すべての成功は我々の必要とするものによって部分的には左右されるが、それをどれくらい必要とするかによっても、大いに左右される。

昔、一人の若者が自分の欲するものを得たいと考え、それを如何にして見出すことが出来るかを知るためソクラテスに問いにアテネにやって来た。彼は、「ソラテスさん、貴方は大きな智慧と学問を持っていらっしゃる。私は千五百マイルを旅行して、学問と智慧を得るためにどうしたらよいか知るために、貴方に教わり度いと思つてやって来ました」と言つた。するとソクラテスは、「私について来なさい」と言いながら、彼を海岸へ連れて行き水の中を歩き始めた。そして腰の辺にまで水がとどくところへ来た。するとソクラテスはこの若者をつかまえ、頭を水の中に押し入れた。苦しがる彼にかまわず、水の中に押し入れていた。この青年が半ば意識を失いかけたとき、ソクラテスは彼を水から抱きおこし、砂の上に横えて、服をかわかした。その間中彼は市場へ行つていた。

この男は元氣になると、ソクラテスを探し出して、何故あんなことをしてくれただのかと尋ねた。ソクラテスは、「水に頭を押し込められたとき、何が一番欲しかったですか」と聞いた。この男は「空気がです」と答えた。すると、ソクラテスは、「貴方が空気を欲するように智慧と

学問とを欲するなら、それを得るために他の人に尋ねる必要はありませんよ」と答えたのである。

我々は学問を愛し、学問を欲するとき、それを得ることが出来るのであつてこれ以外に道は無い。ガンジーは正直を愛し、そして、正直を欲した。ガートルードは自動車を欲し、ソクラテスは智慧を欲した。かくの如く、諸君の欲するものは何でも、人生は包んで、贈物として諸君に与えてくれる。学校で良い成績を修めたいと欲するなら、諸君のなすべきすべての事柄は、より一生懸命努力することであろう。欲するだけを得るということがどうゆうことであるか知るまで、諸君の学校の先生はいつまでも諸君の頭を水の中に押し入れて下さるにちがいない。

私はここで諸君に大いなる人格を持つ若干の人たちを示し、その人たちの生活の中に人格が如何に反映されているかを見たいと思う。医者は病氣の体と健康な体を比較することによって、医学を学ぶように、我々は人格の力を比較、短究することによって人格の特性を知る。

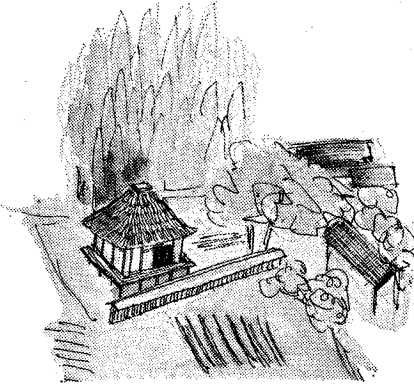
少し前のこと、私はサー・ウォルター・スコットの偉大な小説「アイヴアンカー」にその基礎を置く天然色映画を見た。諸君はこの小説が十二世紀の後半、聖地に向つて十字軍を組織した勇敢な英国の王リチャードに関する事柄を取り扱ったものであることを知っておられるで

あろう。この一隊はその目的を果すことが出来ずして、失敗し、リチャード王自身も囚えられて、外国の牢獄に投ぜられてしまふ……彼のいない間、反逆者らが政府をのつた。リチャード王はその牢獄から脱走して、英国に帰ったときまず身の安全を考えて、仮装し、普通の武士に身を固めた。除々に彼は忠実な臣下を少しずつ集め、英国を正義なる者の手に取り戻そうと準備を開始した。

彼らが最初に為したことは、敵の要塞であるトーキルストーフにある城を攻撃すること、ここにリチャードの友人であるアイヴアンホーや臣下たちが傷つき、囚えられていた。アイヴアンホーは城の外部で攻撃が開始されるのを聞くと、自分の附添の看護婦であるレベカに頼んで窓のところに立つてもらい、何が起つていのかを説明させた。そして彼がまず第一に知リたかったことは、誰がこの城の攻撃を先導しているのかということであつた。なぜなら、誰かが指導者であるかを知れば、勝利を得ることが出来るかを知ることが出来るからである。そこで、彼はレベカに武士のかぶとの勲章が何であるか書いてくれと頼んだ。そうすればその人が誰れかわかると思ったからである。レベカはその指導者が目だたない、平武士として聞つており、何ら特別の勲章も、しるしもつけていないと報告した。そこで、アイヴアンホーはその人がどんな方であるかと彼女に尋ねた。人

格の偉大さは鋼鉄のよろいによってかくされることは出来ない。

そこで、レベカは彼が重そうな「おの」をふりまわしている大きな男であると述べ、「石や木材が城の上から彼に投げつけられていきますけれども、彼はそれをあざみの種か鳥羽のようにしか考えていません。あの人は自分の一本の腕に二十人力があるかのように聞っています」と言った。アイヴァンホーは、そのとき、王以外にこのような人を思いあたるのが出来なかった。彼はリチャード王がこの如く闘うのを知っていた。しかし、彼はリチャードがオーストリアの牢獄に囚われている故王の如く闘うことの出来る人は一人もいないということも知っていた。レベカは「見えて恐ろしくなる程ですが、一個の人間の心と武器であるような多くの人に対抗して闘うのを見るのは本当にすばらしいことです」と言った。



私は、リチャードの武器は他の武士の持っていた武器とは大きくちがっていたと考えるのであるが、武器から力が生れるのではない。レベカは「一個の人間の心と武器」と言ったが、リチャードは心をつくして戦っていた。即ち、彼は英国のために戦っていたのである。誰れでも心をつくして戦うときに、大いなる事は必ず生ずる。

アイヴァンホーは、この見知らぬ指導者に感謝した。彼はこの戦士の名前を知らなかったけれども、そのすばらしい人格に心をうたれ、「私は私の国の名誉にかけて誓う。あの偉大な人の側に立って一日でも良いから一緒に闘いたい。そのために、私は十年間の囚われの生活もがまんする……」と。囚われの生活はアイヴァンホーにとって最も大きな苦しみであったことであろう。しかし彼はこのような偉大の指揮の下で戦うという特権を得るために、十年間の牢獄生活によるこんで甘んじた。

一九五二年一月二日、私は偉大な軍人の一人が米国大統領に任命され、その就任式で演説するのを聞いたことがあるがこのとき、私はこの英国の王リチャードの勇敢さを思い出した。この就任式に於いて演説したこの軍人も心をつくして戦っていたように思われた。彼は「アメリカがこの世界をたらさんと希望するものは、まずアメリカの心の中にもたらされなければならぬ。世界を動かす力は知

性ではなく、感情である」と言った。これは心の中より生ずる力である。これらは我々が感じ、信じ、そして愛するものである。

次の言葉は極めて重要なものである。

「神はその姿に似せて人を創りたり」諸君の一人一人は神に似せて創造されているばかりでなく、神性の特性を備え、それを与えられており、この神性を発達せしめることは、我々の生きる目的の一つである。しかし「人間の創造」は、エデンの国に於いて終了せしめられたのではなく、今日に於いても続けられ、諸君は創造者なのである。即ち、諸君は、態度、熱意、廉直、靈性、必要物、勇氣、信仰を創造しつつあり、これらが、人間の性格……人格なる最も大いなるものを創造し出せるのである。

私は手の中に黒いクルミを持っている。クルミには石のようにかたい殻があり、中にもやはり石のように堅い綱状のものがある。しかしその間には取るに足らぬ、つまらないものがあるが、実はこれに奇蹟的な力がある。この種が適切に植えられると、熱が内部に生ぜしめられこの熱がクルミの内部でもえると、ある物事が発生して来る。外部に小型発電機装置を置くことも出来る。何故なら、力は内部から生じて来るからである。このクルミが内部で熱を得ると生ぜしめられた力が一枚の紙であるかのように「か」を破り、若枝が土壌を破って出て、

大きなクルミの木になる。故に、この小さな糧に水の中、空気の中、土の中のすべての要素から、木、葉、花の果実を作り出すに必要なすべての成分を取る力があると云えるだろう。

しかし、諸君のすべては心の中にもっと大きな力、即ち、周囲の環境より、極めて大いなる奇蹟——「人格の奇蹟」を生ぜしめるに必要な能力があることを知っているだろうか。

自然には、九十八の元素（酸素、炭素、水素、窒素を含む）がある。これらは自然を作り出すもので、これらのものから正しい結合と配合により、自然はこの世の物質的な物を作りあげている。しかし同様に、人格というものにも五十一の元素がある。即ち、親切、友情、正直、信仰、勤勉、献身等であり、これらが正しく結合、配合するときにいわゆる「すばらしい人格者」が生れるのである。

その一つの結合を持つ人としてモハンデイス・K・ガンジー、シーザー、ナポレオンなどがおり、偉大なる予言者や、エイブラハム・リンカーン、ジョージ・ワシントンなどもある。

しかし、これらの人たちより、もっと大切なことは、諸君が現在自分のものである全く比類なき人格を育成、創造しつつあるということである。諸君は心の中に周囲の環境の中にある諸君の人格を作り出すものを有しているが、大いなるものは親より受け継ぐものではない。エ

イブラハム・リンカーンの如き人は多くいるし、ブッカー・T・ワシントンの如き人も多い故に、大いなることは環境でもない……。最も大いなることは人格を作り出すことで、これが諸君の生活を如何に形作り、整えるかということである。

古代に於て、人々は罪人をとて面白方法で罰していた。ある人が殺人を犯すと、その罰は、その殺人者を殺された人の死がいとくさりで結びつけ、これにより、殺人者はその悪しき行いの結果から苦しみを解かれることが出来なかつた。彼はどこへ行つても、この死がいをひっぱって歩き、後になって、また人を殺すようなことがあると、もう一つの死がいがこれにつけ加えられたのである。

この罰の方法は極めて厳しいものであったが、人生というもののにもこれに類似した報復の計画があると考えられる。諸君は常に諸君の罪にしばられている。即ち、若し諸君が節制の律法を犯すなら、その罰は諸君をもっとと深い絶望の道においやり、またすべての人はアルコール分を含んだ飲物を飲む人が自分をしばりあげてしまっている怪物からのがれようと必至になっているのを見たことがあるであろう。不正直な人に対する罰は不正直がその人の性格の中に悪霊の如く化身してあらわれるということ、また短究、学問を怠る人に対する罰は、その人がどこへ行つて、無智で過ぎなければ

ならないということである。故に如何なる人でも一時も学問をおろそかにしてはならない。

我々は自出の罪のために罰せられるばかりでなく、我々は自分の罪によつても罰せられる故、多くの罪をもつた肉体をもつて、大いなる成功をかち得ることが出来るであろうか。使徒パウロは次のように言つたとき、以上のことを心の中に考へていたと思われる。「ああわれ悩める人なるかな、此の死の体より我を救はん者は誰ぞ」(ロマ書七章二十四節)如何なる人にとつても悪しき行いと、その自然の結果の間にとどまることは難かしい。例えば、統治者は殺人者を許すことが出来るかもしれないが、その罪の自然の結果は許しに触れるものではない。即ち、誰かが殺された人の生命をとりもどすことが出来るであろうか。神は我々の罪を許したもうのであるが、誰かが我々の絶望を許すことが出来るであろうか。また、我々の無関心、我々の無智、我々の怠惰を許すことが出来るであろう。

一匹の馬があるときその主人から逃げだし、しばらくしてから、馬は心を入れかえ、再び主人のところへもどつて来て「私はかえりました」と言つたという昔のおとぎ話がある。このとき主人は馬に「お前はたしかにかえつて来たね。けれども畑はまだ耕されてないんだよ」と言つたのである。放蕩息子も父親のところへもどつて来たが、その放蕩のきずは

消えることなく、失われた年月は、とりもどせるものではなかつた。耕されない土地、学ばなかつた教訓、発達せしめられなかつた人格——これを悔い改めるのは非常に困難なことである。

我々の発達段階は、他の人々の持つ特性を短究することによつて、大きな援助を受ける。例えば古代のローマ人は偉大な英雄たちの銅像を作り、それを自分の家になたて、心の中にたえずこの如き英雄の良き特性をきざみつけていた。

リンカーンの奴隸制度反対論を受け入れない人が、何故、奴隸は自由になるべきではないかについて、納得行くような議論を出した。リンカーンは壇上に登りこれらすべての考えをすて、こう言つた「我々には一つだけ決定する事項がある。奴隸制度は、正しいか、それとも誤っているか。これだけである」。これが極めて大いなる成功をもたらす鍵となつた……。時々、我々は、それはどれくらい価値があるのかとか、他の人々はどうか考えるだろうかと迷ふことがあるが、私は諸君がこのリンカーンの面影を心の中にいだき、問題に直面するときにそれらに対する正しい返答の出来る鍵を作つておくようにおすすめしたい。

ここでもう一人の偉人について考えてみよう。ジョージ・ワシントン・カーヴァーは黒人の奴隸として生れた。彼が生れた頃は、土壌を運搬して、それより水を排除し、そして可能なる限り肥た土壌

とすること、夏に他の地方にも行つて、そこでもこれと同じようなことを繰り返して行ふということがその時代の一般の習慣であつた。ジョージ・ワシントン・カーヴァーは一般の他の人と共通したピーナツから約三百の商品を作り出したので、多くの人によく知られ、……また南部の黒人の間で教育上の努力を払つた故に彼を知っている人が極めて多い。しかし、私の場合は、彼が次のような立派な言葉を言つたので、彼を決して、忘れることが出来ない。

「すべての人間は、土壌を発見するときそれをもつと肥えた土壌にせしめる責任を与えられる」。

農場を作ることは大きな一つの計画ではあるが、農夫を作りあげるのは、もっと大きな計画である。そして、それはもっと大切なのである。エドウィン・マーカムは次のように言っている。

人間が出来ていないのに何故こんなすばらしい町を建てるのか建てる人が成長、進歩しなければ我々は無駄に世界を作っていることになる



解答者

ジョセフ・フィールディング・スミス長老

悔改めと罪の赦し

質問

罪を犯しても、その罪が現れずに、この生涯に関する限り罰せられなかった人たちの状態はどうなりますか？

答 聖典は罪に就て次のように解釈しております。

罪は法則または要求を犯すことであり、神性な律法または戒めを無視し或は無関心であることである。

或罪は他のものよりも重大で、その悔めは容易ではありません。血を流すことの罰なくしては赦されないとこの殺人

のような罪があります。(創世記九・六)

どんな性質であろうとすべての罪は、制定された法律または戒めを破っている。その代価が支払われない限り罰せられる価値があります。その代価は肉体的または知的苦しみ或はその他、その負債の支払いであります。聖文は私たちに、すべての罪は悔改めまたは罰を以て償われなければならないと告げております。

主は当然、いささかも罪を見逃したまわれない。義は神性な律法の如何なる違反に対しても、その償いを要求します。償いはすべての罪に対して何らかの方法でなされねばなりません。この理由で私たちの贖主イエス・キリストは、この世に來たり、苦痛な死を苦しみ、悔改めて神の戒めを守る人の罪を償われたのであります。これを罪の代贖と呼びます。

悔改めて福音を受け入れるすべての人は責め苦或は刑罰の代償を支払うことなく贖われるのであります。私たちにもたらされるこの大きな祝福に就て、主は啓示によって予告者、ジョセフ・スミスに言いました。

見よ、われは神なるに、人もし悔い改めるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けるべからず。

その苦しみたるや、われ神、すなわち

すべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかすきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども、父なる神は贖むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らのために準備を為し終りたり。

(教義と聖約 一九・一六—一九)

償いの神性な律法は、すべての罪に對し償いを要求し、もしそうでなければ罪の赦しはないのであります。神の子は偉大な愛を以て、この世に來たり、すべての人間をアダムの墮落と、各人の忠実な悔改めと神性な救いの計画を受入れることを条件とする彼自身の罪から救うために自らを犠牲に供されたのであります。

更に主は死者を不死不滅に回復するために來られたのであります。この回復は単にイエス・キリストの福音を受入れた人ばかりでなく、この地の面に住むすべての生物に更に地球そのものにさえ及ぶのであります。何となれば地球はその表面に在るすべての造られたものと共に、死の苦痛を味わねばならず、それを通じて救主の贖いに基き新にせられ復活するのであります。それですから神性な命令によつて与えられた聖文は、私たちに、この地球もまた同様に贖われて、日の光栄の体、義人の住む処となるであろうと告げております。

支部だより

三宮支部

秋深まりスポーツ、食欲のシーズンと成りました。三宮支部では、八月から今までやってバレー、バスケットとは他に卓球(ピンポンという方がよいかもしれない)を活発にするようになりました。時折ピンポンとはうまく名を付けたと思います。

私のような下手がしますとピンと打つとボンと返されます。その楽しいゲームの中で人々の心はいつとはなしに、暖かい兄弟愛が育ってゆく事を感じます。土曜日は終った後、日曜日の準備のため、全員で椅子をならべ、会堂全体の整頓をして帰ります。時間さえあれば、ボーリングに盛場に行きたい年頃の人達が健全なスポーツを明るい雰囲気の中で行なっているのを見ると、童心に帰ったつもりで彼らの中にとけこんで行けます。私は真の兄弟愛はこのような所から芽生えると思います。



悔い改め

進歩の法則

△その1▽

悔改めは低い処から向きを変えて高い処へ向って努めて行くことであります。救いの原則として、それは単によくならうとする望みだけでなく、悲しみ、即ち単なる悔恨でなくいかなる程度にしろ、罪ある、悪い、賤しいことに汚されたことを心から悲しむことです。

イエス・キリストの福音のすべての原則及び儀式が、人の進歩、幸福、永遠の生命にとって大切であり重要であります。けれども人類家族の救いにとって、神性で永遠に作用する原則、悔改めほど大切なものはありません。それなくては誰も救われることはできません、人は進歩することすらできません。

デビッド・O・マッケイ大管長

……私はすでに罪を悔い改めて主に贖われた。ごらん私は「みたま」によって生れた。

主は私に「天下の万民は男女を問わず、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる國語の民、あらゆる人々にいたるまでみな新に生れざるべからざることを怪しむなかれ。人はみな神によりて生れ、その墮落したる肉体の有様より義しき有様に移り、神に贖われて神の息子または神の娘とならざるべからず。かくて人は新なる者となる。しからざれば決して神の王国に住むことを得ず。」と仰せになった。 モーサヤ書二七・二四—二六

成長及び達成の教義

何年も前に次のような古い詩がありました。

わたしは再出発の地と名づけられる
或素晴らしい場所があるように望みます
そこでは、わたしたちのすべての間違ひ
すべての傷心
そしてすべてのわたしたちの哀れな利己
的な悲しみは
見すばらしい古衣のように戸口で脱ぎ捨てられ

決して、二度と着ることはないのです。

ルイザ・フレッチャー・ターキントン
あなたは正しくありたいですか？ あなたは成功したいですか？ あなたの間違いと過ちを改正できることは、あなたにとって大切なことでしょうか？ もしもあなたが通常の人であつたら、これらの質問に対して、はい、と答えるでしょう。

わたしたち自身を改め正しくし、経験から

学び、つまづきから目覚め、それをつくり、更に高くよい経験の水準に上ることは、人生を価値あるものとしようとするすべての人にとって必要なことであります。誠実で間違ひのないようにする人には福音は、再出発の地を提供します。これはイエス・キリストの福音の第一原則の二番目に見られる悔改めの原則であります。これによって過つた判断間違ひ及び誤解、更に故意に犯した罪迄、克服され改正されるのであります。

悔改めは福音の計画の中で自由意志に最も必要な同伴者であります。自由意志の権利を与えられた内で完全な人だけがすべての問題に直面し、または決断に迫られた時に、正しく選択することができますが、わたしたちは完全なものではありません。わたしたちのこの世の生涯は神性な学校の教室であり、その中で神はわたしたちに賢くなるように、また成長して成人になるように教え加えるものであると解する時、そのような悔改めの原則が神性な計画に絶対に必要なものであることを理解できるのです。

再出発の機会なくては、わたしたちが生涯に於て犯すすべての間違ひは、更に深く罪と誤りにもつれてしまうのです。悔改めは進歩する原則であり成長と達成の教義でありそれを通じて人はその間違ひや過ちを越え、知恵と成熟を得てこの生涯で他人と交際する生活によって必然的にもたらされる無限の問題の流れに正しく効果的に処することができ

るのです。
悔改めは犯行の窮地に立った極悪人だけが

するような原則であると誤解してはなりません。悔改めは、成長し、進歩しているすべての人の日常生活に知られ用いられるべきものです。それはすべての自由意志を持った人の成長の原則であります。わたしたちが悔改めを日常に必要なこととして参照する時にそれは眞の悔改めを意味しておるのです。これは毎回同様の罪を犯して、同じように求められる代償を悔い改めという形で繰り返す支払うのとは違います。それは罪と過ちを克服して新しい問題及び挑戦に直面した時、或はそこでもまた間違ひかも知れないが、悔改めによってこれらの過ちをも克服し改正して行くことを意味しております。

福音は積極的な人生の生き方であります。それは、この世の中で、わたしたちの周囲には善も悪もあり得ることを更に、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬことを、を認めております。けれども、人々は神の息子、娘であります。そして福音はもし従うなら世の善悪に直面して、正しい選択をし、効果的な決定ができるように学べる神によって与えられた計画であります。ヒュー・B・ブラウン副管長は言っております。

わたしたちの教義は、積極的なものであり人生を肯定するものです。わたしたちは、はっきりと人は生れながらに善悪を行う自由を持っており、神は人に自由な道德的意志を与え、善悪、正邪を見分ける力と、善と正義を選ぶ力を授けたと宣言します。わたしたちは或キリスト教の宗派が信じているような聖書

にある人の墮落は、人間の性悪を記したものであるとか或は原罪の教義を否定致します。

わたしたちは、人は神の御意志を行う能力がないとか、神に認められるに値しないとかということ、またそれであるから人は神から完全に遠ざけられた者であつて、どのような救いがもたらされても、それは惜しみなく過当に与えられた賜であるということ、信じていません。わたしたちは、人類が現世に在るのは幸福を得んためである、という靈感された福音の真理を絶えず宣言します。聖書にある人の墮落というのは、わたしたちにとって人は人の霊を悪は実在するけれども克服できるところ自由な道德的な決心が常に必要とされるところ、自由な選択ができ、人生の価値と人の終局的な状態を決めるところに、冒險させ、経験の世界に置くことであります。

ヒュー・ビー・ブラウン

一九六四年四月大会報告

すべての人は何時か何処かで自由意志で選んで、真に徳の權威に倒達せねばなりません。何となれば徳は、道德的責任の基礎だからです。真の徳は善悪をわきまえ、その知識の責任に於て、理論或は哲学としてではなく、現実には挑戦する人生の諸問題の中に目的を以て善を選ぶことであります。この選択は強制或は制限されることなく真の徳を以て、各人が正義を選ばねばならないと信じて行われるものです。徳は決して如何なる人にも負わされるものではなく、その人によってのみ達成されるものです。ブリガム・H・ロバーツは人の生涯がその経験を通じて、如何にそ

の価値を感謝する念を強めているかに就て述べております。

人は真理が間違ひと対立しているのを見ることによって真理を愛することを学べます。また徳が悪と対立しているのを見ることによって徳を愛することを学べます。また死の瞬間に臨んで永遠の生命に感謝すること、学ぶでしょう。疑いの最中であつて信仰によって歩くことを学ぶでしょう。そして絶体的ひ知識よりも推し測つて行動し、絶体にそうなるということもなくまた人の理性によつても決められない神のみこころのつかさどる神の知恵と善意に信頼することを学ぶであります。

ブリガム・H・ロバーツ

一九六四年四月に開かれた教会の総大会の神権会に於ける話でヒュー・ビー・ブラウン副管長は次のように宣言しました。

ほんとうの人格は人の魂の戦いの真中に於て形成されるのです。キリストは動乱から解放される意味でなく、動乱の真中に平和を与えたのであります。わたしたちに必要なことは、どのように生きるべきか知っている通りに生活することによつてもたらされる平和を動乱の真中に於て見出せるように、自分の内に自制心を伸ばすことであります。

ヒュー・ビー・ブラウン

一九六四年四月大会報告

父リー・ハイはその子に福音計画の基礎を教えて告げました。

それは、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。……もしも物事にその反対のものがなければ、正

義も不正も聖潔も憐むべき様も善も悪も生ずることができぬ。(ニーフアイ第二書二・一一)

働らき、苦闘、問題、対立等これらすべてのものは成長と達成のために必要なものであります。この国のまた他の如何なる国の歴史でも読んでごらん下さい。偉大なる人及び力のある指導者は常に試練に堪え、苦闘を乗り越えて来た人々です。文明の進歩、発明、発見、及び新しい思想は常に人が問題に取組み、それを解決することによつてもたらされたのであります。

よい材木は容易に成長したものではありません。

風が強ければ強い程、樹は強靱になります。

空が高ければ高い程、丈は長くのびます。暴風が烈しければ烈しい程、強くなりません。

陽、寒気、雨、雪によつて

樹木または人々によい材木、人材が成長します。

ダグラス・マロックス

すべての苦闘が勝利と成功に終るわけではありません。人は間違ひを犯し、悪い決定をなし、間違つた選択をします。或場合には罪や悪につまずき、或時にはその眼を大きく開いていながら、自身の自由意志と選択によつてこれらのことをします。これが人生の挑戦です。高慢な心或は偽善により或は無知から或はまた肉体的な弱さから、自分たちが最も関心を持っている道から離れ、主の誠命と教えを拒み、自然と人間性の律法を破るので

す。

人間は死滅する肉体を持っており、人間的な弱点に取巻かれております。直接、肉体的な欲望に迫られ完全な律法の高い標準から離れるようにそそのかされております。高められた状態の作用の下にある時は高度の解決をします。過去の間違いを避けて、よくならうと固く決心します。けれどもそのようなふんいきから出て、混沌たる人生の俗事に追われると、高貴な目的を、しっかりと保って行くことが難かしくなってくるのです。友だちとの競争に於ては本能的に勝とうとし、機会に乗じて善いことを曲げて友だちをだまし、或事実をかくしたり、偽って人の代りをし、その他何か偽って、他人の犠牲に於て利益を得ようとし、或は競争相手を悪く言うことによつて優先しようと、その機会をねらい或は賤しい欲望、汚れた感情を満足させ、衝動にかられるままに、高い決意はにぶり、貴い決心はうもれて、理想の標準から滑り落ちてしまふのであります。

アルバート・E・ボーウエン

一九四九年十月大会報告 一三九頁

人の道徳的な強さ、確信及び信仰は個人的にいろいろな問題にぶつかつて、それらに打克つことによつてもたらされるのです。戦時訓練のときに、すべての人の心に起る疑問は、わたしは戦場に於て敵に直面したときに、臆することなく堪えるだけの勇氣があるだろうか？ ということであります。如何によく訓練された兵隊たちでも実戦の経験がなく敵に直面したこともなく戦場の苦しみも味った

ことのない時に、緑の部隊と名付けられました。これらの兵隊たちの心にまた上官たちの心の中に常に無言の疑問——果して恐怖感を制して臆することなく挑戦に立ち向えるだろうか？——があるのです。彼らの最初の戦闘の経験は、誠に適切に、火のバプテスマと呼ばれました。そしてそれから彼らは、経験部隊として知られるようになるのです。実際に敵に直面し戦場に堪える迄、彼らは、彼ら自身を証明しなかつたのであります。

ブリガム・ヤングはわたしたちの生涯は、経験の学校であると言いました。（説教集）わたしたちは人生の問題にぶつかる迄は、緑の部隊であります。そしてオルソン・F・ホイットニーはこれに付け加えております。福音は神の教育過程であります。そしてこれに労苦、試練、喜び、悲しみ、失敗、成功、祝福あざなえる繩のような人生の経験が伴います。それは人生の大学教科課程であります。

聖典がよく指摘していますように人は人生の経験によつて証明されるのであります。

リーハイが語つた人生に於けるすべての矛盾対立、及び人生に本質的なものとしてしばしば与えられる試練にもかかわらず福音は人がすべてこれらの内にあつてもし努力するならば、罪に打克つ完全な能力を持っていることを確証しております。福音は人生のための

成功する計画でありますが人間を失敗に導くように計画されたものではありません。

善によつて悪に打克つのが人生の苦闘であります。それは悪をしのぐ完成と救いの達

成への闘いであり、わたしたちは進歩が遅いからとあまり失望してはなりません。それは人間の望みとか傾向を変えて行く働きだからであります。完成は達成され、救いは克ち取られねばなりません。それらは惜しめない賜として与えられるものではありません。世の中に徒手で得られるようなものはありません。すべてのものがその価格を持つてゐるのです。人類の進歩のすべての段階に、また人の技術の驚くべき前進の陰には厳しい労苦の汗があり、失望落胆、失敗後の再起、の苦闘によつてもたらされたものであります。

偉大なる人が倒達し、保っている高きは一躍して倒達したではありません。彼らは同僚たちが眠っている夜に苦勞して登つて行つたのです。

聖オーガスチンのほしこ

ヘンリー・W・ロングフエロー

この容赦のない律法は現実界と同様に精神界に於ても作用しているのであります。進歩成長、前進は苦闘と克服の結果であるということは、すべての面に於ける、人生の法則であります。靈的方面の苦闘は善悪の間に、最高の義のための闘いであり、その闘いに勝つ唯一の道は、徳を行い、悪を止めることであり、

アルバート・E・ボーウエン

一九四九年十月大会報告

わたしたちは皆不完全な者である以上、生涯に於て、何度も悔改める必要があります。故意に罪を犯したのでなくとも、わたしたち

実行しなければ、力を得られません。

リチャード・L・エヴァンズ

一九六三年四月大会報告

この力は信仰を通じ、人の權威である自由意志を積極的に実施する時に起るのです。既に言ったように、それは成長と達成の原則です。けれどもこれは各自が自身の内に達成せねばならない個人的な成長です。それなくしては、人は自分の感情と弱さの奴隷となるのです。それがあつた時、人は自由になり成長し進歩するのです。他人は助けることができず。けれども終局的には、闘いに勝つべき強さを自分自身の内に打ち建てねばならないのです。

鎖を解除して奴隷を解放しました

けれども彼は依然として奴隷でした。

まだ奴隷根性につながれていたのです。

まだ怠惰と無為の手腕につながれていたのです。

まだ恐怖と迷信にしばられていたのです。鎖によつてでなく彼自身の内に奴隷となつていたので。

ただ自由な人を自由にすることができただけです。

そしてそのために必要なことではないのです。

自由な人は自身を自由にします。

悔い改めの意味

辞書の中に書いてある悔改めの定義は、福音の教えの中に与えられてある意味より遙かに短いのです。辞書の中に定義されてある、*"Repent"* は昔のフランス語 *"repentir"* か

ら派生したもので、このフランス語はまた、ラテン語の *re* 及び *penitere* から来たものでそれは、ごんげ、悲しみを以て過去を顧みる自責または悔恨と殆ど否定的な考えであります。

心から悲しみ遺憾に思ふことは大切で悔い改めに必要な部分であります。けれどもそれはただその目的と意義の始めに過ぎません。悔い改めの目標は罪と過ちを克服して無知に打ち克つことです。この目標は、その心痛或は悔恨の情が如何に深くても、ただ遺憾に思ひ悔いするだけでは達成されません。悔い改めは、その過ちが真理によつて、罪が正義によつて、或は無知が知識によつて置き代えられる迄は完成されない原則です。

聖典の中にある英語の *"Repentance"* はその語源である旧約聖書のヘブライ語、新約聖書のギリシヤ語、共に豊富な大切な意味が含まれております。先ずユダヤ語の百科辞典に説明されてある、ヘブライ語の悔い改めの定義を調べてみましょう。

ユダヤの教義による悔い改めの完全な意味は、はっきりと *"teshuvah"* (lit. return) に示されております。この意味は (一) すべての墮落と罪は、人が神の律法から離れた必然の結果である (二) 神が人と共に在るように、人が神と共に在ることは人の定められた道であり義務である (三) 如何なる人でも財を捨てて、神の許へ戻る決心することによつて罪から赦されるのであります。神の愛は戻ってくる罪人にも及ぶのであります。

悪しき者はその道を捨て

はしばしば人生の貪しい道から、よい方へ向わねばなりません。悔改めは通常自由意志の健康的な成長に見られるものであります。それはイエス・キリストの福音外にあるものでなくて、それは福音の知的な基本原則の二番目であります。信仰と同様に、それは行動の原則であり、成長と達成の教義です。何が正しく何が悪いかを知っているだけでは不十分です。悔改めは、それに就て何か為すことであります。リチャーズ・L・エヴァンズが言っているように知識では充分であります。

ウィンストン・チャーチルの言葉から少し引用して見ましょう。最善を尽していると言つても効果がありません。必要なことは成功しなければならぬことです。わたしたちが最善を尽しているかどうか、はつきり知りません。人生に於ける如何なる遂行に於ても殆どの場合、もうそれ以上がなばることができないということを確かめることはできません。永遠の生命が大きな報賞である以上、ただためしてみるだけでは不十分です。やりとげなければなりません。ただ一度の旅があるだけです。永遠な、一度の旅です。わたしは目覚めている限り俗に言う。坐つて見過す。わけには行かないのです。知るだけでは不十分です。

エマーソンは言いました。世界は数学的に平衡を保っているようで、あなたが如何にそれをくつがえそうとしても、自ら平均します。そしてエマーソンはわたしがよく引用する言葉をつけ加えております。実行しなさい。そうすればあなたは、力を得るでしょう

正しからぬ人はその思いを捨てて主に帰れ
そうすれば主は彼にあわれみを施される。
われわれの神に帰れ、

主は豊かにゆるしを与えられる。

(イザヤ書五五・七)

四、善を行い、罪を犯さない正しい人は世にいない。(伝道の書、七・二〇)からすべ
ての人間は神に戻ることを主張する必要がある
のであります。

同様の罪への誘惑が同様の状態で起った時
に、断平として拒絶することによって、心か
らの悔改めは現われます。

恥を知り自責の念にかられることが卒直な
心からの告白となり、そしてその心と行動を
変えるのであります。

ユダヤ百科辞典フィリップソン・サモスカ
フランク及びワグナルス 一九〇五頁

次に新約聖書のギリシャ語を見ると、どち
らも英語に“Repentance”悔い改めと訳され
ている二つの同類の言葉が用いられているの
を発見します。一つは“metanoia”で、心の
変化、でありもう一つは“metanoeo”で、他
の心を持つ、であります。訳者はこれらは単
に知的変化以上のものを意味していると説明
しております。“Repentance”悔い改めと訳
された“metanoeo”を、人の性質全体の変
化、を意味すると定義しております。マッケ
イ大管長は悔い改めは悔恨の情を超えて、人
の本性そのものを変える働きであると言っ
ております。

人が過つたり愚かなことをしたり罪を犯し
たりした時、それを悔いるけれども、そのよ

うな弱点と悪から去ってしまおうとしないこ
とがめずらしくありません。悔恨しているか
も知れませんが、それは一時的であって、性
格または行動の変化迄もたらしません。これ
に反して悔い改めは、自責の念によって罪を
悲しみ、罪から完全に遠ざかることでありま
す。それですからこれは単なる悔悟ではあり
ません。それは、人の性質を天にふさわしい
ように変えることを含んでおります。

デビッド・O・マッケイ大管長

インブルヴメント・エラ

一九五九年三月号 一四三頁

このような変化は、人が自分自身で自らを
変えなければならぬものです。他人は
願ひ、導き、励まし、教えることはできま
す。実際に変えるのは自分自身だけでありま
す。

悔い改めの真の意味を理解するために、
わたしたちは、またイエス・キリストの福音
の根本原則を理解せねばなりません。人は自
身の内に変化する必要を自覚せねばなりませ
ん。そこで悪を捨てて原則を適用するのです
が、その決心は、心から自分でしなければな
りません。

人間のあらゆる努力の中で、悔改める時程
自由意志の原則を効果的に現すものはありま
せん。人生に於て人が自由意志を行使して悪
に打ち克つ時以上に神と御子イエス・キリス
トを崇める時はありません。何となればこれ
が正に神が擁護している計画であるからであ
ります。

アルヴィン・R・ダイヤー

リーハイ・ジェンセン長老は、悔改めは
進歩発展の第二の原則で、この作用なくして
は勉強も進歩も、或は道徳的勝利もない、と
言っております(長老たちの雑誌リアホナ)

わたしたちの生涯の経験に於ける最も大き
な進歩は、悪い道を捨てて善い道に向う結果
もたらされます。知識と理解に前進し、新し
い、よりよい人生の道がわたしたちの前に開
かれます。若しも、わたしたちが賢明である
なら、わたしたちはこれらを受入れて自分の
ものとしします。これが成長の根本原則であ
ります。

現世でまた来世で進歩改善、前進すること
は、人間に対する神の御計画の根本原則であ
ります。現世に於けるいろいろな経験、喜び
悲しみ、成功失敗、誘惑と抵抗、人間の生涯
のすべての苦痛と喜びは、終局に於て人の心
の進歩のためになるのであります。

ジェームス・イー・タルメージ

モルモン教要項

悔改めは積極的でその性質に於て再創造的
であります。それは罪及び悪行また人生の消
極面に關することなので多くの人が、悔改め
それ自体が消極的なものであると思っていま
す。これは大きな誤りであり、悔い改め
の、全体的な目的及び意味は積極的で、償い
でありまた、挑戦されているものであります
悔い改めは行為の力強い原則であります。そ
の悲しみは、神の悲しみ、であり、心くだか
れ、へりくだったけれども常に個人的な進歩
発展に導かれるものであります。ジョン・エ
イ・ウィッツォーはこの福音の積極的な対象

に就し次のように言っております。

福音の律法を定義するものは永遠の進歩の可能性であります。救いの計画は前世に於ける進歩の大会議に参加した人たちに可能なように立案されました。如何なる福音の原則または儀式の意義も、この律法に参照することによって理解されます。現在または将来主の前に立つ私たちは、絶えず進歩して来た、その進歩によって計られます。それは根本的な従って統制して行く福音の律法であります。ブリガム・ヤングの言葉に、わたしたちは何のために、ここにおるのであるのか？ もっと楽しむことを学び、知識と経験を増すためであります。（ブリガム・ヤング説教集、八七頁）進歩とは場所から場所へ、知識から知識へ、行為から行為へと前進して行くことです。それは間違いを取除き、新しい真理を付け加え、より大きく自主を伸ばすことによって、現在わたしたちが持っているものに更に増し加える行程です。この行程によって、すべての性能の力が増大して行くのです。それは成長発展の過程であり、更に大きく成熟して行くことであり、しっかりと神に近ずいて行く道であります。

ジョン・エイ・ウィットソール
インブルームメントエラ

一九四七年十月号 六六一頁

この進歩及び進歩の原則に就ての説明が、悔改めによる変化と続けて更に正しい生活に成長して行くことに如何に多く関係しているか注目してごらん下さい。進歩と悔改めが要求しているのは積極的なまた動力的な

原則です。注意深く考え、理解することもその一部ですが、進歩と悔改めは考えだけで決して達成されるものではありません。ウィットソール兄弟は続けて言っております。

進歩は積極的に増加することです。静止しているものは前進の領域に入つて来ません。過去に満足している者、知識を増し加えることに骨惜しむる者、才能をよく使つて生かそうとしない者たちは進歩の状態ではありません。増大して行く真理の王国に入るには、過去の誤りによって更に協力が要求され、新しく得たものを、すべて実行して行かねばなりません。そのような人だけが進歩しているのです。（全上）

悔改めは単に積極的な原則であるばかりでなく、それはまた毎日、毎時の任務であります。向上しようと努力する時、到達した新しい高さに、更に高い所から、わたしたちに挑戦がなされております。悔改めは上の方を向いており、上方のみを向いています。ステッフェン・エル・リチャーズはこの不断の任務に就て言っております。

わたしは悔改めを決して静止しているものと考えたことはありません。人はその生涯に於て、一日だけ悔改めればよいということとは到底、考えられません。わたしは、それが日ごとに適用される進歩の原則であると思っております。完全な人生に就ての概念を与えられている人で毎日の生活に、完全にその概念にそつた理想的な生活を送っていると感じる人は殆どいないでしょう。毎日前進し

ていながら、この高い目標を充分に自覚できず、すべての人は悔改める必要を感じるに相違ありません。ですからそのように不十分さを感じる各人は天のお父様と、若し隣人をつまずかせたらその隣人に対し赦しを乞ねばなりません。この不断に遺憾に思い努力することが進歩的な、常に適切な、悔改めの原則なのです。この繰返し繰返し弱点と誤りを認め、更に高く、求めよく生活して行く時に完成へと導かれて行くのであります。

ステッフェン・エル・リチャーズ

一九五六年四月大会報告 九〇—九一頁

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
上質革製合本
モルモン経 一一〇〇円

教義と聖約
高価なる真珠
合本 三〇〇円

モルモン経(新約) 三〇〇円

信仰箇条の研究 三三〇円

基督・イエス 三〇〇円

末日聖徒イエス・キリスト教会略史 一一〇円

モルモンとは(新版) 一五〇円

総合聖句の手引 一五〇円

メルケゼデク神権、教師と生徒用

モルモン経の読み方と手引 二二〇円

アロン神権者用学科課程 一五〇円

神の王国 二二〇円

アロン神権者用手引 一〇〇円

アロン神権のなかの祭司 一八〇円

回復された神の教会 一〇〇円

神と人 二〇〇円

家庭に於ける神権の発揚 一五〇円

モルモン経の新研究 三三〇円

日本系図探求要覧 一一五円

扶助協会手引 一五〇円

求道者教育法 一二〇円

道は開ける 四五〇円

日曜学校用

モルモン経物語 一五〇円

旧約聖書物語 一五〇円

福音の実践 二〇〇円

我等の標準聖典 二〇〇円

古代の使徒 一五〇円

教義と聖約の教え 二〇〇円

福音の紹介 一七〇円

完成への道 一〇〇円

宗教生活 一五〇円

奇しきみわざ上巻・下巻 各二〇〇円

家督権の祝福 一〇〇円

家族の昇栄 二〇〇円

シオン山の救い手たち 二〇〇円

レッスンの手引 六〇円

M I A 用

M I Aの手引 一二〇円

我らは信じる 二〇〇円

我らは生きる 一二〇円

我らは奉仕する(66年度テキスト) 一五〇円

素晴しき考え(66年度テキスト) 二〇〇円

生活の目標 一五〇円

今日の十誡 二五〇円

エンサインローレルの手引 一五〇円
演説が上手になる法 一五〇円

ロールブック

M I A 一〇〇円

扶助協会 一〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌集(新版) 四〇〇円

リクリエーション歌集 四〇〇円

その他ブックカバーなど

モルモン経カバー 二〇〇円

教義と聖約カバー 二〇〇円

合本カバー 二〇〇円

信仰箇条の研究用カバー 二〇〇円

聖餐カップ(一箱) 二五〇円

聖餐クロス(一セット) 三三〇円

ブレットトレイ 一三七五円

ウオータートレイ 二七五円

LDSバッジ 一〇〇円

よりよいあなた 一七〇円

図書の購入は支部長会に申し出てください

聖徒の道は

私たちが真理を知る「てだて」であり

私たちの心と心がかよう道です

あなたの霊の進歩のために

あなたの信仰のかてのために

お役に立つ本であればと思います

支 部 所 在 地

北海道地方部

- 旭 川 旭川市8条5丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話 (2-1545)
- 室 蘭 室蘭市幸町89
電話 (7054)
- 小 樽 小樽市富岡町1ノ35
電話 (2-8224)
- 札 幌 札幌市北2条西24丁目
電話 (63-7866)

東中央地方部

- 群 馬 高崎市並榎町275
電話 (2-7121)
- 甲 府 甲府市中央3丁目12-2
松 本 松本市開智1ノ1ノ6
- 新 潟 新潟市中大畑町557
電話 (2-8660)
- 仙 台 仙台市光禅寺通り28
電話 (25-0897)
- 東京中央 東京都港区青山北町6ノ34
電話 (408-3307)
- 東京北 東京都中野区江原町1ノ8ノ14
電話 (952-1531)
- 東京東 東京都江戸川区西小岩5ノ8ノ6
電話 (657-5223)
- 東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (729-6311)
- 東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1ノ7ノ7
電話 (22-6764)
- 山 形 山形市七日町4丁目12ノ23
- 横 浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (49-8772)

西中央地方部

- 阿 倍 野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (623-4315)
- 福 岡 福岡市浄水町46
電話 (52-8653)
- 広 島 広島市古田町古江400ノ3
電話 (31-6135)
- 金 沢 金沢市兼六元町3ノ8
電話 (21-2131)
- 京 都 京都市左京区下鴨松原町44
- 名 古 屋 名古屋市昭和区北山町3ノ41
電話 (73-4210)
- 西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4ノ54
電話 (5-0141)
- 岡 町 大阪府豊中市岡町北2ノ18
電話 (52-1236)
- 岡 山 岡山市学南町1ノ13ノ11
- 三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4ノ35
電話 (86-2602)
- 柳 井 山口県柳井市今市391

沖縄地方部

- 普 天 間 沖縄宜野湾市野嵩区328
- 那 覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (8-6568)

- 建築部事務所 東京都港区青山北町6ノ34
電話 (402-4010)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

聖徒の道

一九六六年十月一日発行

振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

印刷所

株式会社三五堂

定価八十円

一年予約八百四十円(申込は支部長まで)